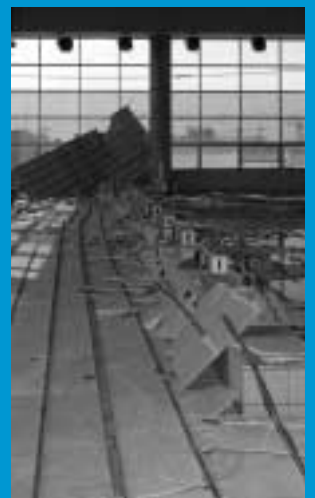


地震・停電に

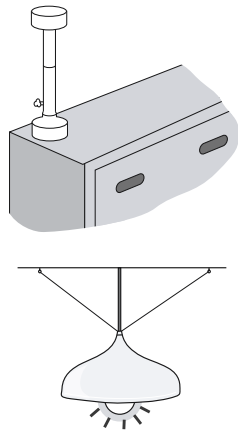
備えまじょう

平成23年3月11日に発生した東北関東大震災。川口市でも震度5強を記録しました。普段から地震に備えておきましょう。また、停電の対策も考えましょう。



普段からできる備え

- 家具類の転倒・落下防止
・テレビやパソコン・仏壇などをすべり止めマットや粘着シートなどを敷く。
・たんすや本棚などを転倒防止器具で壁や床に固定する。
・避難に支障のないよう家具を配置する。
・照明は天井にじかに取り付けるタイプにするか、釣り糸などで三方を留める。



- けがの防止対策
・食器棚や窓ガラスなどにはガラスの飛散防止措置をしておく。
●火災の予防・早期発見
・普段使用しない電気器具はコンセントを抜いておく。感震ブレーカー、感震コンセントなどの防災機器を設置する。
・早期発見のため、住宅用火災警報器を設置する。

家族・近所で話し合い

- ・地震が発生したときの役割分担、離れ場所になった時の安否確認方法や、集会所を家族で話し合う。
・避難場所や避難経路を確認する。
・普段隣近所と協力体制を話し合う。
●地域の危険性を把握
・市の防災マップに加え、我が家の防災マップを作る。
・(市の防災マップは、市ホームページから、分野で探す↓安心・安全↓防災・避難場所↓「川口市地震防災ハザードマップ」を参照)
●防災知識を身につける
・新聞・テレビ・ラジオやインターネットなどから、防災に関する知識を身につける。
・防災訓練に参加し、災害時の行動を確認する。

用意しておきましょう

非常用持ち出し袋を作りましょう

- 持ち出し袋には、以下に挙げるものなどを入れ、家具の転倒などがあっても取り出せるような身近な場所に置いておく。
- 飲料水・非常食：賞味期限を確認

医薬品・救急セット

- 懐中電灯：夜間や地下での災害に備えて、小型のものをいつも持ち歩くのが理想。
- 緊急連絡先一覧
- 笛：閉じ込められ、身動きできないときに居場所を知らせる。
- 家の鍵のスペア
- 携帯ラジオ
- 家族の写真：家族の捜索に便利。
- 貴重品袋・身分証明
- 軍手：作業をするときに必要
- 厚手の靴下：飛び散ったガラスから足を守る。
- ヘルメット
- マスク：火災のときなどに
- 乾電池
- ウエットティッシュ
- 現金（小銭）
- 雨具
- 携帯トイレ
- 下着・衣類・タオル
（「こんなものも重宝します」）
- ラップ：皿の上に敷くと、貴重な水を節約できる。
- ビニール袋：水を入れて運んだり、洗濯に利用する。
- トイレットペーパー

備蓄をしましょう

- 自宅の倒壊の危険がなく、自宅でライフラインの復旧を待つ場合に、必要になるものを備蓄する。
- 水：ペットボトルのミネラルウォーターや、水道水を用意。
 - 非常食：消化がよいもの、栄養バランスがよいもの、火を使わなくてすむもの、長期保存できるものなどがよい。水を入れるだけで食べられるアルファ1米、缶詰（缶切りも忘れずに）などのほか、チョコレートなどが役立つという声もある。
 - トイレ：非常用簡易トイレ、自動車用品の使い捨て携帯トイレなどがあると便利。
 - 懐中電灯：持ち出し用のほかに、いくつかあると便利。
 - 携帯電話の充電器
 - 下着・タオル・厚手の靴下
 - 長袖シャツとズボン：皮膚を露出しない方がよい。木綿やウールなどのほうが引火しにくい。
 - ヘルメット
 - マスク
 - 乾電池

不要不急の購入を避け、冷静に行動しましょう。

地震が起きたら…

地震が起きたとき、あなたはどのような身を守りますか。考えてみましょう。

	震度5強	震度6弱	震度6強	震度7
人の動き	ものにつかまらな いと歩くのが困難	立っていることが 困難	はわないと動けな い、飛ばされるこ ともある	
周囲の 状況	棚のものが落ち る 固定されていない 家具が倒れる	壁のタイルや窓ガ ラスが破損、落下 することも	固定していない家 具のほとんどが移 動し、倒れるもの が多くなる	耐震性の低い建 物だけでなく、高 い建物も傾いたり、 崩れたりする
		瓦の落下 耐震性の低い建物は傾く		

それぞれの震度でどのような状況になるのか、参考してください。

〈参考：気象庁ホームページ〉

地震が起きた瞬間は…

●身の安全を図る

- ・ テーブルや机などの下にもぐったり、座布団などで頭を守る。
- ・ 外出中は、かばんなどの持ち物で、落ちてくるものから頭を守り、ブロック塀や崖、倒れている電柱や電線など危険なところから離れる。

地震直後は…

●出口の確保

- ・ 揺れがおさまったときに出口を確保する。その際、照明器具などの落下、室内で転倒・落下した家具類やガラスの破片などに注意する。

●火の元の消火を確認

- ・ 震度6を超える地震になると、消火の余裕すらないと言われている。揺れがおさまってから、落ち着いて火の始末をする。
- ・ 出火した場合は、慌てずに消火をする。

●屋外に出るときは…

- ・ 慌てて外に飛び出さず、瓦、窓ガラス、看板などが落ちてこないか注意する。
- ・ ブロック塀などには近寄らないようにする。

地震後は…

●近所のかたの安否確認

- ・ 我が家の安全を確認したあとは、近隣の安否を確認する。

- ・ 倒壊家屋や転倒家具などの下敷きになった人がいたら、近隣で協力して救出、救護する。

●正しい情報収集を

- ・ ラジオやテレビなどから正しい情報を得る。

災害時の 伝言サービス

〈電話〉
災害用伝言
サービス171

〈携帯電話〉
災害用伝言板

計画停電などの情報を メール配信しています

「きらり川口情報メール」の「防災行政無線情報メール」で配信しています。

kawagch.musen@mpme.jp
へ空メール、または右のQR
コードから登録できます。



原子力発電所の事故に 関する健康相談について

埼玉県は、原子力発電所の事故に関する健康相談窓口を県内各保健所に設置しており川口市内におきましては埼玉県川口保健所が窓口となります。

市民のみなさんには、状況の変化に十分注意していただき、正確な情報収集と落ち着いた行動を心がけていただきますようお願い申し上げます。

問い合わせ…川口保健所 ☎048-262-6111
相談時間…平日の8:30～17:15

※詳細は埼玉県保健医療政策課ホームページに掲載されています。

東北関東大震災の義援金箱を設置しています。(詳細は10ページ)

停電に備えましょう

■停電前に

- **いたみやすいものは早く食べ、保冷剤を用意**
市販のものだけでなく、密閉容器に水を入れて、凍らせたものを即席の保冷剤とすることも。クーラーボックスを利用することも有効。
- **コンセントを抜く**
ドライヤー、アイロン、トースターなど、熱を発する電気製品は、停電から復旧したあとに火災の原因となるおそれがある。そのほかにも、故障の原因になる場合がある。
- **OA機器の電源も落とす**
作業中に電源が落ちると、データが失われたり、故障の原因になる。
- **水の汲み置き(一部のマンションなど)**
給水ポンプが止まると、給水が止まることがある。
- **加熱調理、給湯(オール電化の家・操作に電気を使っている場合)**
カセットコンロなど調理器具の準備、もしくは事前に調理。お湯などの確保。また、オール電化でなくても、給湯器が停電のときに働くか確認。
- **明かりの確保**
懐中電灯、ライトなど。
- **情報収集の準備**
携帯電話のワンセグ放送、携帯型ラジオなどを準備しておく。

■停電中は…

- **不要不急の外出は控える**
外出する場合も、信号機・街灯が点灯しないので注意する。
- **火気に注意**
ローソクや、カセットコンロを使う場合、倒れないよう確実に固定し、子どもが近付かないよう注意する。
- **時期に合った服装を**
冬では、室内でも保温用下着、マフラー、ネックウォーマー、靴下の重ねばき、重ね着など、暖かさを確保する。
- **エレベーター**
閉じ込めに注意。停電が予想されるときはなるべく利用しない。
- **オートロック、自動ドア**
自分自身の出入りのみではなく、防犯にもより注意を。